

左「砂川捨丸の鼓」(大阪府立上方演芸資料館所蔵)、中央『郷土研究 上方』147号表紙(大阪府立中央図書館所蔵)、右「俄本『改良二の加』」(大阪府立上方演芸資料館所蔵)

大阪府立上方演芸資料館出張展示

「わろてんか」の時代の上方演芸

～萬歳から漫才へ～

入場
無料

テレビ番組「わろてんか」で取り上げられている上方演芸の世界について、大阪府立上方演芸資料館の所蔵品と大阪府立中央図書館所蔵の関連図書を中心に紹介します。今なお愛され続ける庶民の娯楽はどのように発展してきたのでしょうか。大阪が育んだ笑いの文化を振り返りたいと思います。関連講演会として、同番組で上方芸能考証を担当している荻田 清さん(梅花女子大学名誉教授)に上方演芸の歴史とその特長をお話していただきます。

展示期間 平成30年1月30日(火曜日)から2月25日(日曜日)迄 火曜日～金曜日 9時から19時(土曜日、日曜日、祝日は17時迄)

会場 大阪府立中央図書館1階展示コーナーA・B ※2月5日(月曜日)、8日(木曜日)、13日(火曜日)、19日(月曜日)は休館日

協力 吉本興業株式会社

関連講演会

「わろてんか」に出てきた芸能 - 二の加、まんざい、あほだら経など -



講師 荻田 清 さん

梅花女子大学名誉教授
「わろてんか」上方芸能考証担当

2月18日(日曜日) 14時より15時30分まで

定員80名 (申込不要・先着順・無料・開場は13時30分より)

大阪府立中央図書館 2階多目的室

(東大阪市荒本北1-2-1)

講演概要

「わろてんか」は、吉本興業創業者の吉本せいをモデルとした<恋愛ドラマ>といわれている。そのため、明治37年頃から太平洋戦争終戦直後あたりまでが描かれるらしい。上方演芸としては、講談や落語にやや陰りが見られ、浪花節が大劇場に進出し、万歳が変質・成長して漫才となって躍進する時代と言えよう。

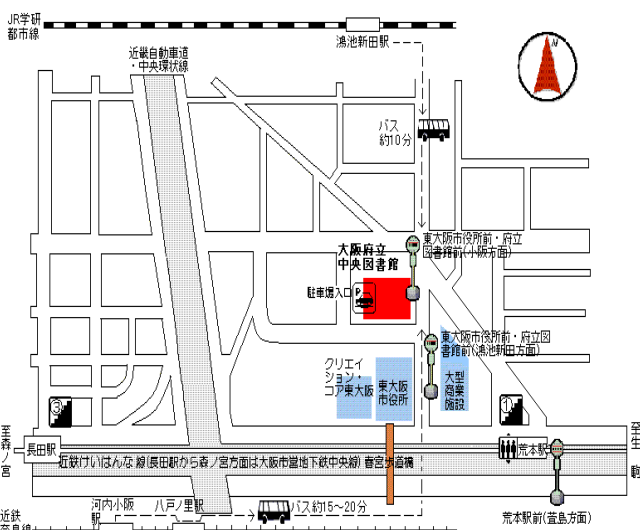
ドラマでは祭礼の境内で小屋がけの演芸が演じられたり、太神楽などの大道芸も見られた。副主人公藤吉の演じる「二〇加(にわか)」もあり、ヒロインの恋敵リリコの妖艶な「娘義太夫」もあった。奇術や後ろ面の踊りや怪力、顔芸、百面相などの色物芸、音曲の万歳もにぎやかで、のちにはしゃべくり漫才も出てきた。

演芸の見本のように多様な芸が見られたが、本講演では今日なじみがうすくなってきた二〇加(にわか)、万歳(まんざい)、阿保陀羅經(あほだらきょう)などについて、その歴史をたどり魅力を探りたい。上方演芸資料館の展示解説も兼ねている。

【講師紹介】

荻田 清(おぎた きよし): 梅花女子大学名誉教授、大阪府立上方演芸資料館資料活用検討委員会会長職務代理兼資料整理部会長、文化庁文化審議会専門員、阪急文化財団理事、日本芸術文化振興会文楽研修講師、専門分野は近世上方芸能史、上方文化史、編著書に、『上方板歌舞伎関係一枚摺考』(清文堂出版)、『笑いの歌舞伎史』(朝日新聞社)、『上方落語 流行唄の時代』(和泉書院)など多数

※講演会の参加に際して、障がい等の状況により、配慮が必要な方は事前にお知らせください。



【アクセス】

- 近鉄けいはんな線(地下鉄中央線乗り入れ) 荒本駅下車(1番出口)北西へ約400M
- 長田駅下車(3番出口)北東へ約1000M
- 東大阪市役所北側

問い合わせ先

大阪府立中央図書館 生涯学習事業担当

〒577-0011

東大阪市荒本北1-2-1

TEL 06(6745)0170 FAX 06(6745)0262

【駐車場】

- 有料地下駐車場: 120台/入庫後15分間は無料(平日は100円/60分、最大料金500円、土日祝祭日は150円/60分、最大料金600円)
- 詳しくは、次のホームページをご覧ください。

<https://www.library.pref.osaka.jp/site/central/>